

## 経営学部

### 伊藤 光翼

約1日かけてたどり着いたブダペスト空港から外に出た瞬間、乾いた冷気が身体にすぐ染み渡わりました。空港にて出迎えてくれた学生の中には、23年度の交換留学生のマルトン君もいて再会できて嬉しい反面、初めて会う学生たちとの緊張もありました。宿泊施設であるCEUへ向かう車窓から見える景色は、駐車場、道路、駅など、どれもが日本よりも広大で、建物と建物の間隔も広く、その記憶が強く鮮明に残っています。

今回のハンガリー研修のメンバーは、8人で、そのうち7人が留学生をサポートする学生ボランティアグループのJISTに所属しており、お互いをよく知る真柄でスタートしました。私はそのグループのサブリーダーも務めており、全員との面識も会話も経験がありました。その中で、私はJISTではない人間を孤立させないようにすることが私の目標の一つでした。それを達成することができなければハンガリー人との異文化交流は難しいと考えたからです。この目標の達成度合いは、私自身ではできず、当事者か先生がするもだと考えているので、現時点では不明です。

ハンガリーに到着してからの研修期間中、数多くの経験を得ることができました。それは、英会話スキルの向上といった良い面ばかりでなく、全員が常にスマートフォンでコミュニケーションを取れるわけではない状況下で、情報伝達の混乱によるアクシデントも多々発生しました。しかし私が一番この研修で学んだことは日本とハンガリーは観光大国でありながら、依然として外国人にとって住み良い街づくりのためには多言語での翻訳精度などでの改善の余地があるということです。



駅を降りてすぐのインフォメーション

そして、研修の成果として、「誰もが住み良い街づくりを考える」というテーマのもと、ブダペスト商科大学（BUEB）との合同発表では、以下の提案を行いました

#### 短期滞在者向けの対策

- ・多言語表記の案内板や標識の整備
- ・直感的に理解できるピクトグラムの活用

#### 長期滞在者向けの対策

- ・様々な宗教の信仰者のための祈祷スペースの提供
- ・施設を通じた地域住民との交流機会の創出

さらに日本語が他の言語と比べて言語的特性（コンテキスト）が大きく異なる点です。この課題に対応するため、外国人とのコミュニケーションにおける「やさしい日本語」の活用についても提言を行いました。

ハンガリーの学生とコミュニケーションをとるにあたって、驚いたことがあります。ハンガリーの学生と交流する中で、驚いたことがありました。それは、日本特有のものだと思っていた「おもてなし」の精神に触れたことです。ハンガリーの地でお会いした学生達をはじめ、関わった BBU の先生方に受けた優しさや気遣いは確かに、私たちが教えられてきた「おもてなし」そのものであったと感じています。

最後に、この素晴らしい経験を与えてくださった城西大学と国際課、推薦書をご執筆くださった山口教授、スライドの英語指導を行なってくださった石川教授、事前研修の指導から現地までも同行してくださった佐野准教授と石田さん、そして、共に研修に参加した7人の学生と、いつかまた再会を喜べるだろう BUEB の学生たち。関わってくれた全ての人たちへの感謝を綴り、この研修の報告といたします。



国会議事堂